

後鳥羽天皇火葬塚風倒木復旧整備工事に伴う立会調査

本火葬塚は、日本海に浮かぶ隠岐諸島「島前」と呼ばれる主要3島のうちのひとつ、中ノ島を行政単位とする島根県隠岐郡海士町にあり、諏訪湾に近い北西斜面上に位置する(第33図)。諏訪湾を臨む丘陵上には、弥生時代では銅剣を出土した竹田遺跡やV字環濠に囲まれた集落跡と考えられる西塔寺遺跡、古墳時代では異形刀子などを出土した新開古墳群が点在している。また、中世においては村上氏の拠点であった森城跡などがある。

火葬塚を中心とする陵墓地内には、隠岐に配流された後鳥羽天皇(上皇)の居所であった源福寺とされる行在所跡(図版12-1)などがあるが、平成16年9月の台風18号により、陵墓地内の杉が22本に渡って倒れ、工作物に著しい損害を与えた。また、根起きした箇所も多く、特に行在所跡内において顕著であった。このことから、根株を起こして元の位置に据え直す復旧工事と、それに併せて立会調査を行うこととなった。調査期間は、平成16年11月22日～26日で、遺構・遺物の状況を確認するとともに、必要に応じて図面の作成などを行った。また、調査に際しては海士町教育委員会から多大なご協力をいただいた。記して感謝申し上げたい。

行在所跡は外周を2段の石積で囲っており、基壇であることが容易に推察される。原位置を留めているか否か不明であるものの、現状で礎石も幾つか残っている。倒木復旧のため掘削を行ったのは4箇所であるが(第34図A～D)、根起きのため、すべて不定形な穴となっていた。そこを、断面の観察ができるように、平面が方形あるいは長方形になるように整形し、A・C地点の2箇所について土層断面図を作成した(第34図、図版12-2・3)。2箇所とも大きく分けて3層を確認した。I層はA地点で顕著に認められる厚い盛土である。礎石掘方を明らかに覆っている点、II層の在り方と大きく異なる点などから、基壇上面を平坦に整えるための比較的新しい時期の盛土と考えられる。II層は、基壇に顕著な版築状の盛土である。いずれも堅緻で、特にC地点においては、厚さ5～10cmの粘質土と砂質土を交互に積んだ状況が観察される。各層には炭や石の細片が多く含まれているという特徴がある。III層は地山と考えられる。A地点ではほぼ水平に検出され、極めて均質・堅緻である。C地点は、検出レベルがA地点に比べて約30cm低い。

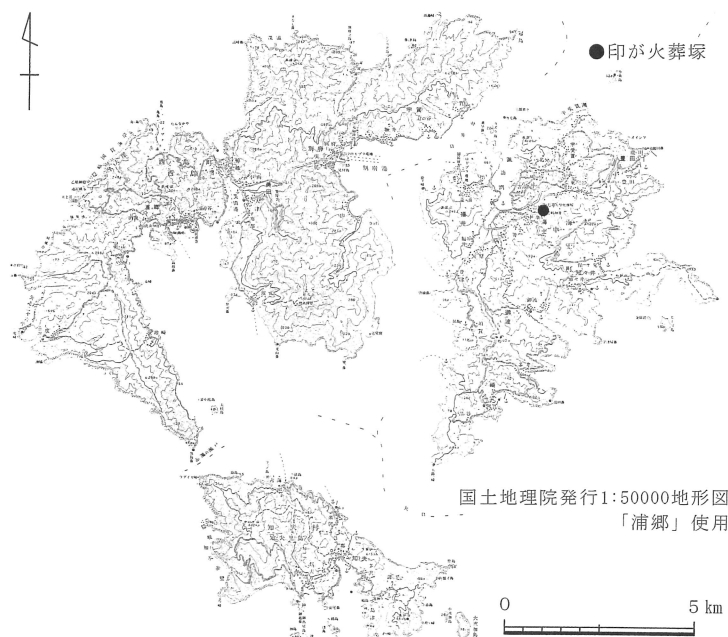
また、A地点ではII層上面で礎石掘方、III層上面で土坑が検出された。土坑は基壇構築前のものであるが、

埋土はII層の土質と同じであることから、基壇構築時期と大きく隔たるものではないと思われる。

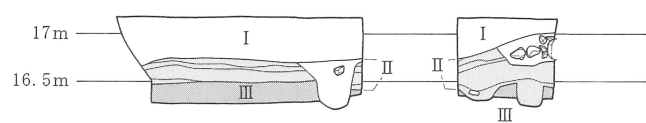
以上の結果を踏まえ、工事は予定通り実施した。

なお、遺物については、C・D地点から磁器の破片が5点出土している。細片のため図化の困難なものが多く、写真で提示した(図版12-4)。1のみI層出土で、2～5はII層中位からの出土である。1は火鉢の口縁部と考えられる。2～5はいずれも碗などの細片で、2のみ口縁部とわかる破片である。

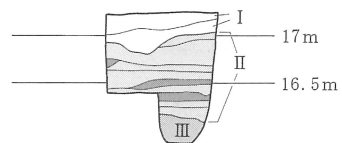
(清喜裕二)



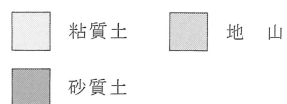
第33図 後鳥羽天皇火葬塚 位置図 (1/200000)



A地点断面図



C地点断面図



第34図 後鳥羽天皇火葬塚 調査箇所位置図 (1/1500) および断面図 (1/80)



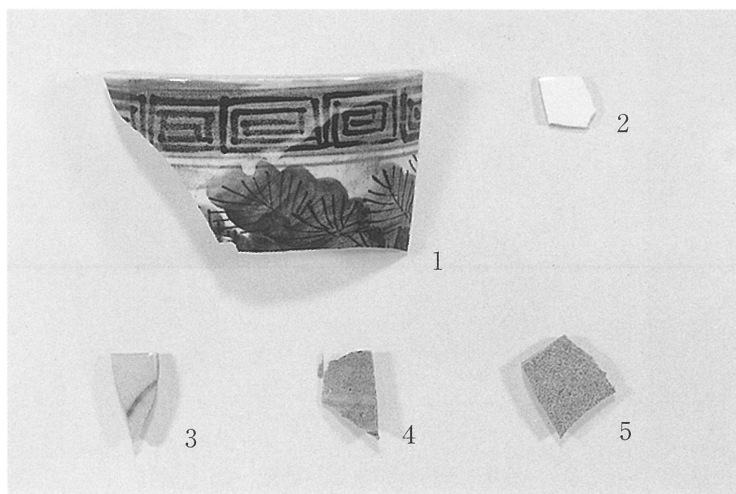
1 後鳥羽天皇火葬塚 調査箇所 全景（北東から）



2 後鳥羽天皇火葬塚 A地点 土層断面



3 後鳥羽天皇火葬塚 C地点 土層断面



4 後鳥羽天皇火葬塚 出土遺物